

第三章 鉄道駅と線路沿線のグアタパラ耕地周辺の配耕先と名簿内容

1920年～1930年代において、モジアナ沿線配耕コーヒー耕地も広範囲になる。

グアタパラ耕地周辺のモジアナ沿線、パウリスタ線、始発駅から終点駅まで駅名と、記録のある範囲で配耕先と氏名、渡伯船を記する。(現在はほとんど廃駅ではある)

*パウリスタ線グアタパラ駅 (路線開通が1901年12月30日)

また1910～1913年にかけてモジアナ線ジャタイ支線開通されモンテイ口駅新設された。

1) グアタパラ駅 CIA Paulista が1886年9月22日に駅を落成

(前記してあるので第3回移民以後)

グアタパラ始発駅～リベイロン・プレート終点駅(グアタパラ、ヴィラ・アルベルチーナ、モンテイ口(分岐点)、メンドンサ、ドミンゴ・ビレラ、F・マキシアノ、ジョアキン・フェルミノ、サンタ・テレザ、シルベイラ・ド・バル、リベイロン・プレート)

【戦前にグアタパラ耕地で就労した人々】

*西村興作 1910年6月 旅順丸(第2回移民)

長男吉崎敏雄は1913年8月15日生、ブラジルのグアタパラ耕地生れ、山口県熊毛。

*秋村長寿 1912年4月 巖島丸(第3回移民)就労後 熊本 福岡県人10家族を引き連れてジュケリ(現マイリポラン)に約50アルケーイレスの土地を求める。(「ブラジル日本移民・日系社会史年表」32ページ)

*高野文作 1912年 巖島丸 初男(文作氏長男)(「在伯熊本県実態調査発展史」728ページ)

*高野光男 1912年 同上 (ブラジル熊本交流協会提供)

*村上登 1912年 同上 同上

*金水義男 1912年 神奈川丸(第4回移民) 後年ジャルジノポリス市で煉瓦工場営む。
(ブラジル熊本交流協会提供)

*稲田安喜(父親新蔵)1912年 同上 後年 ジャルジノポリス市在 同上

・金水、稲田両氏は後年義兄弟家族であり、多くの日本移民が就労したジャルジノポリスの没落したサント・アントニオ耕地200アルケーレス(カンナ栽培、レンガ製造)を1940年代に両氏で購入。近年までリベイロン・プレート市農務局で勤務をしていた、稲田技師は安喜氏の子息。

*河尾利一 1912年 巖島丸(第3回移民) 広島県呉市(「平野25周年史」)

*林義茂(旧三宮) 1912年 同上(「平野25周年史」)

*蓮池九一・妻たづ 1912年4月 巖島丸(第3回移民) 広島県出身
グアタバラ耕地就労中に子息ハクゾが1914年に誕生。ソロカバーナ線第二モンソン植民地等に移転。
(現サンパウロ州インディアツーパーバ在の孫・マサキ記述)

*加来順太 1912年 神奈川丸(第4回移民) 熊本県八代郡(「モジアナの土に生きる」)

*徳永治作 1912年 同上 同上(「平野25周年史」)

*前田義雄 1912年 同上(父市蔵) 同上 同上

*古庄常喜 1912年 同上 満5ヶ年在耕後、1916年2月ペンナ駅移転、熊本県菊池郡
(「今日のブラジル」808ページ)

*佐光政輝 1912年 同上 広島県呉市 米作に従事 翌年レジストロ移転
(「ブラジル日系紳士録」429ページ)

*宮田亀吉 1912年 同上 熊本県八代郡 米作 コーヒー栽培従事 後年カタンツーパーバ在住
(「ブラジル日系紳士録」691ページ)

*竹内金市 1912年4月 神奈川丸 広島県呉市両替町出身
グアタバラ耕地に配耕されたが、6ヶ月後聖市へ移転。耕地では畑中仙次郎、福川薩然の両氏から夜学でポ
語を習う。(「ブラジル広島県人発展史」151ページ)

*山田隆次 妻せい子 弟正忠 1912年4月 神奈川丸 広島県三原市新町出身
グアタバラ耕地に配耕されたが半年でサン・パウロ市に移転。(「ブラジル広島県人発展史」57ページ)

*太田長次郎 1913年 第二雲海丸(第5回移民) 広島県山県(「平野25周年史」)

*福島守 1913年 同上 同上 広島県安芸郡(「平野25周年史」)

*坂本芳行 1913年 同上 同上 熊本県玉名郡
23歳で妻初江伴いサンタ・リタ耕地に配耕1年未満で脱耕後グアタバラ耕地で3年就労(「熊本県人発展史」)

*松村正男 1913年 同上 同上 熊本県阿蘇郡
米作に従事後年パラナ・アサイ在住。(「ブラジル日系紳士録」791ページ)

*川本英世志 1913年3月 第二雲海丸 広島市仁保町日宇郡
兄多造、さきよ夫妻の構成家族で15歳の時に渡伯。サン・マルチーニョ耕地で1年半就労後、グアタバラ

耕地で1年働き、その後兄夫妻と共に平野植民地へ入植する。(「ブラジル広島県人発展史」97ページ)

*青木孫八 1913年5月 若狭丸(第6回移民) 熊本県菊池郡
妻トヨと共に配耕後、平野植民地開拓に参加長男学をマラリア病で亡す。(「熊本県人発展史」391ページ)

*久保文次郎 1913年5月 若狭丸(第6回移民) 広島県安芸郡(「平野25周年史」)

*神藤一 1913年5月 若狭丸 広島県隻三郡川西村 家長眞一郎氏の家族構成員で渡伯
グアタバラ耕地に就労すること2ヶ年後、リベイロン・プレート市に1ヶ年、ペローバ耕地2ヶ年移転を繰
り返しパラナ州トレス・バラス移住地バルサモ区に入植する。
(「トレス・バラス移住地開拓20周年史」598ページ)

*大海悟 1913年 同上 広島県海田市町 畑中仙次郎に葡語を習う12歳で渡伯。
(「ブラジル同胞活躍の姿」235ページ)

*桜井初太郎 1913年 同上 広島県広島市(「平野25周年史」)

*山田国三郎 1913年 同上 広島市仁保町大河出身
グアタバラ耕地時代に次のような逸話がある。天長節の日、同耕地の日本人達が仕事を休み、日章旗を掲げ
て祝祭を催した。セルトリ支配人がそれを認めず就働を命じた時、彼は烈火の如く憤り、「イタリア王の誕
生日を休日として、我が天長節に就働せよとは何事か、日章旗に敬意を表せ」と怒鳴りつけた。この道理あ
る言葉には支配人も首肯せざるを得ず、下馬して日章旗に敬礼して全耕地一千家族の労働者に「本日休業」
の申し渡しをしたという。(「ブラジル広島県人発展史」53ページ)

*山本長次郎 1913年 同上 岡山県倉敷市(「平野25周年史」)

*今村義一 1913年 同上 熊本県菊池郡
配耕後転移などして10年後日本の両親が相次いで亡くなり、家族で帰国 1925年5月パナマ丸で再渡伯。

*平田貞蔵 1913年 同上 福岡県三井郡 最初アグードス市
転耕グアタバラ耕地、後年ピラキ在住。(「ブラジル日系紳士録」646ページ)

*魚野巖 1913年 父今村義一に伴なって1歳で渡伯、魚野常次郎長女久子と結婚し魚野家を継ぐ。
(「熊本県人発展史」408ページ)

*鍋島松平 1913年8月 帝国丸(第7回移民) 熊本県菊池郡(ブラジル熊本県文化)

*鍋島信太郎 1913年 同上 同 同
13歳時鍋島寅吉の家族構成員として渡伯。(「平野25周年史」)

*森鶴喜 1913年 帝国丸 高知県土佐市蓮池出身
クラブニョスに配耕就労、転じてグアタバラ耕地にて米作、以後転々して1941年サント・アマー口に移転。

(「ブラジル日系紳士録」)

*中村政信 1913年11月 若狭丸 島根県邑智郡羽須美村出身
永井亀雄の構成家族として13歳時で渡伯。クラビーニョス駅サンタフェ耕地に就労、コロノ生活1ヶ年、この耕地で永井氏弟が原因不明の熱病で死亡したので去り、グアタバラ耕地バルジョン区の叔父、中村好之助に身を寄せ米作に従事。1920年4月1日永田惣平三女節野と結婚後、アララクワラ線ピンドラーマ耕地、タクワリチンガ市郊外等に転じ後、パラナ州に落ち着く。(「島根県南米移住史」289～290ページ)

*今村惟喜 1913年11月 若狭丸 (第8回移民) (「平野25周年史」)

*中林節子 父親寅太 1913年渡伯 長野県上伊那郡高遠町出身
節子本人はブラジル生れ、後年聖市在住。(在伯長野県人会々員名簿 N101)

*佐藤勘七 1914年4月、若狭丸 (第9回移民) (「平野25周年史」)

*重本智吉 1914年 同上 同 山口県玖珂郡 (同上)

*山下永一 1914年 同上 同 兵庫県養父郡 (同上)

*山下定一 1914年 同上 同 同 (「平野25周年史」)

*加来三善 1914年 同上 同 同 熊本県八代郡 (「モジアナの土に生きる」)

*安瀬盛次 1914年 同上福島県田村郡
後年サン・パウロ農拓協理事長、日本移民援護協力初代会長などを務める。

*青木熊喜 1914年 同上 同 熊本県菊池郡 (「熊本県人発展史」346ページ)

*中山亀一 1914年 同上 同 福岡県田川郡 後年カンポ・モロン在住
(「ブラジル日系紳士録」856ページ)

*小野新太郎 1914年 同上 同 佐賀県三養基郡
グアタバラで米作に従事、後年イラブル在住。(「ブラジル日系紳士録」592ページ)

*吉川妙一 1914年 同上 同 岐阜県瑞浪市
グアタバラでコーヒー園に従事、後年スザノ在住。(「ブラジル日系紳士録」348ページ)

*入矢苦吉 1914年 同上 同 岡山県御津郡大野村出身
グアタバラ耕地で義務農年遂行後、カタンツーバ駅サン・ベント耕地に移り、コーヒー仕立6年契約を請負った。4年経過した年の冬、霜害で一夜にて枯死、そのため4ヶ年で契約を中止した。後年パラナ州トレスバラス移住地パルミットル区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓20年」)

*伊藤助一 1914年5月 帝国丸 (第10回移民) 広島県出身 (「平野25周年史」)

*本田授 同上 々 福島県岩代町西新殿 (「ふくしま」29 ページ)

*藤井内蔵吉 佐賀県出身 初期にグアタパラ耕地配耕 (「赤土と移民」11 ページ)

*榛葉彦平 1914年5月 帝国丸 静岡県小笠郡栗源村出身

平野運平の実弟でグアタパラ耕地在住5ヶ月後、カタンツバ駅サルトリオ耕地の支配人に就任。また平野植民地の教師にも携わる。パウルー市で聖州新報記者も勤めた。1930年ブラ拓に入社、チエテ植民地副支配人、1939年トレスバラス移住地第3代支配人に就任する。

(「トレスバラス移住地開拓20周年史」803 ページ)

*中尾 マスキチ 山口県出身

両親・叔父母と共に1915年渡伯とあるが、1914年5月の帝国丸以後、1917年若狭丸が6月15日にサンソス入港するまでの間、移民船は途切れた。氏が18歳の時、グアタパラ耕地で就労。過酷な労働環境に耐えながらも結婚し、15年後の1930年に帰国。ブラジルで稼いだお金で土地を買い、祖国の地で新たな夢をみたものの行き先に不安を感じ、2年後の1932年に再び家族と共にブラジルへ。

*丸山万四郎 1914年 若狭丸 広島県甲奴郡出身

藤村利助の構成家族で15歳の時に渡伯、ソロカバーナ線シモン耕地に配耕、その後単身でグアタパラの米作をみっちり経験する。(「ブラジル広島県人発展史」118 ページ)

*緒方武夫 1917年6月 若狭丸 熊本県八代郡

父の呼び寄せでグアタパラ耕地配耕、2就労後、転じて東京植民地に10アルケーレス農地購入。

(「活躍する日系人」91 ページ)

*岡崎穆(しずか) 1918年9月 博多丸 広島県広島市西天満町出身

ソロカバーナ線で1年就労後、グアタパラ耕地に移転米作を手掛けたが、増水のため収穫したのは1農年だけで、そのほかは丸木舟で稲穂を刈る有様であった。やむなく始めた淡水魚業の方が収入が多かった。クリンバターやドラードがよく獲れ、組合まで作って売るほどであった。5年後の1924年に移転する。

(「ブラジル広島県人発展史」149 ページ)

*仲村明 1919年1月 若狭丸 沖縄県首里市

グアタパラ耕地で米作に従事、後年ドラセーナ在住。(「ブラジル日系紳士録」611 ページ)

*小野原寿万吉 1919年3月 博多丸 佐賀県藤津郡出身

ジャタイー耕地に配耕6ヶ月就労、リンコン付近で借地の米作に従事するが、家族全員がマラリアに罹患。再び就労者にもどりグアタパラ耕地で就労すること9ヶ年。1930年にパウルー近郊へ入植する。

(「見よ、拓人の足跡を」17 ページ)

*沢田俊郎 1920年 パナマ丸 茨城県結城郡出身

最初はリベイロン・プレート付近に居住、以後1925年から数年グアス川(モジグアス川)の付近に住んだころの掲載写真裏(ブラジルの茨城創立30周年記念誌212 ページ)グアタパラ移住地よりジョゼ・テオドロ市(奥ソロカバーナ線)の山奥へ移転前の住居前にて1925年に写す。写真説明では：鹿児島高林出身の

吉加江さん、福島県出身の佐藤さん、戦前聖市で日本薬局主の川辺録一さん、元日伯新聞社の野村忠三郎さん、その他、また当時その地域全部のお産事に男ながら頼まれて取り上げ臍の緒も切ってあげるものだった。



グアタバラ耕地よりジョゼ・テオドロ市の山奥へ移転前の自宅前にて（1925年）
鹿児島出身の吉加江さん 福島出身の佐藤さん 戦前聖市で日本薬局主の川辺録一さん
元日伯新聞社の野村忠三郎さんとその他の皆さん（「ブラジルの茨城 30周年史」より転載）

*プ・ブルデンテ市沢田丈夫氏の叔父俊郎氏が写真裏に上記を書き込んだ沢田俊郎の写真。

*野村忠三郎 元日伯新聞編集長、元文教普及会事務長 1946年4月1日早朝ジャバクワの自宅で屋内に侵入した勝組の一団によって射殺される。（「ブラジル日本移民・日系社会史年表」）

*長野匡由生（マサユキ） 1920年1月 若狭丸 鹿児島県枕崎市
グアタバラ耕地で米作に従事、さらに東京植民地に移転綿作に従事。（「ブラジル日系紳士録」302ページ）

*西野喜代三 1920年11月 若狭丸 佐賀県藤津郡
グアタバラ耕地で米作に従事、後年ヴァルゼン・グランデ市在住。（「ブラジル日系紳士録」297ページ）

*大和栄 1921年 長野県 前述記載あり。

*松島又一郎 1921年4月 たこま丸 熊本県八代郡
グアタバラ耕地で米作に従事、さらに東京植民地で綿作、コーヒー栽培。（「ブラジル日系紳士録」692ページ）

*明田仁伊三（アケダ） 1921年9月 広島県豊田郡
モンテイロ駅グアタバラ耕地配耕、翌年コチア郡モイニョ・ヴェーリョに移転。
（「ブラジル日系紳士録」293ページ）

*岩並信次郎 1922年5月 神奈川丸 後述記載あり

*後宮富彦 1922年 神奈川丸 和歌山県東牟婁郡出身
配耕後、ドワルチーナに移転コーヒー園従事、1941年ルッセリアに再移転。
('ブラジル日系紳士録」578ページ)

*八幡八郎 1922年5月 神奈川丸 広島県呉市和庄町出身
父太郎、母光子の両親に伴われて2歳で渡伯。配耕先はベベドー口駅サン・シモン耕地で1年就労後、グア
タパラ耕地で1年働き、その後平野植民地へ入植する。('ブラジル広島県人発展史」185ページ)

*照沼浅男 1923年3月 神奈川丸 茨城県出身
当時はまだ2百家族の邦人が住居して、その殆どが、コーヒー栽培に従事、グアタパラ華やかなりし頃の入
植者。コロノ生活3ヶ年。



グアタパラ耕地主肖像プレート前の照沼浅男氏 前列右1番目(1963.11.16撮)(つくばね第11号より転載)

*藤田勝次 1924年5月 富山県下新川郡 1年半就労 ('日本力行会名鑑」64ページ)

*西沢春次 長野県松代町出身 渡伯年月日不明
ただし子息万里男の生年月日1924.3.12、グアタパラ生、後年パラナ州テラ・ポース在住。
(在伯長野県人会々員名簿N101)

*西宮忠夫 1927年6月 ラプラタ丸 広島県安佐郡安古市町出身
フランカ駅カシヨエイラ耕地で1ヶ年就労後、グアタパラ耕地に移り4ヶ年の契約農に従事する。
('ブラジル広島県発展史」136ページ)

*青木済 1928年3月 モンテビデオ丸 熊本県菊池郡 ('熊本県人発展史)

*前田精勝 1928年5月 河内丸 熊本県下益城郡 米作に従事

さらにサン・マルチニョ耕地 後年パラナプアン市在住（「ブラジル日系紳士録」572 ページ）

*蔵原敏秋 1929年6月 ラプラタ丸 グアタパラ配耕1農年終え、プロミッソン駅に移転、小川町長遠山文太氏より託された親書を上塚翁に渡す。（「熊本県人発展史」340 ページ）

*藤江清次 兵庫県出身 1929年渡伯

藤井一家の構成家族で渡伯後、グアタパラ耕地に配耕後、2ヶ月で単身カフェランジアの平野植民地へ。ここで妻帯・妻梅野。後年モジ・ダス・クルーセスに移転し、ここで一生を全う。（子女・阿部小夜の記述）

*緒方敬光 1930年4月 ラプラタ丸 熊本県菊池郡

渡伯当年カーナン耕地配耕、翌1931年グアタパラ耕地に入る就労3ヶ年。（「熊本県人発展史」721 ページ）

*古庄辰穂 1930年6月 サントス丸 熊本県菊池郡西合志村

池崎勝彦、初枝の次男。カーナン耕地に配耕、当時沖縄県人が155人就労していた、後転じてグアタパラ耕地で3ヶ年働く。さらにパラナ州に移転トレス・バラス移住地バルサモ区古庄貞記氏に養子として入籍。（「トレス・バラス移住地移住地開拓20周年史」730 ページ）

*沖野一三 1931年4月 ハワイ丸 広島県広島市

グアタパラ耕地で通訳として移民世話をしていた実兄の呼び寄せで、2年就労後、近くのクラビーニョス耕地へ移転、更にモジグアス川の対岸に東京植民地と向かい合わせのグアラニに移転。（「モジアナの土に生きる」）

*藤川信一 1931年11月 リオ・デ・ジャネイロ丸 熊本県天草郡

最初カーナン駅サンタ・ルジア耕地に配耕、契約農年終了後、1932年10月からグアタパラ耕地へ移転コーヒー園就労、1934年9月イタクア駅へ。（「熊本県人発展史」648 ページ）

（特記）ブラジル山口県人会創立70周年記念誌中に1914年4月27日、若狭丸サントス着の山口県人19戸の氏名の記載があり、この時グアタパラ耕地には103家族配耕（山口、兵庫、福島、長崎、熊本の各県人）と記載されている。

*岡崎音平 主（22歳）山口県豊浦郡 生年月日 1892.9.22

イチ 妻（18歳） 宇賀村 々 1896.9.21

内田包亮 妻の弟（16歳） 々 1896.11.1

*弘中与介 主（36歳）山口県豊浦郡 々 1878.5.15

ミチ 妻（38歳） 宇賀村 々 1876.2.29

ハツノ 長女（16歳） 々 1898.4.21

鉄夫 次男（3歳） 々 1911.3.20

*弘中勇 主（32歳） 々 々 1882.4.7

マツヨ 妻（27歳） 々 1887.2.24

ミネヨ 長女（7歳） 々 1907.4.5

徳一	養子 (15 歳)		々	1899.5.21	
*杉野四郎	主 (21 歳)	々	々	1893.6.25	
ヨシノ	妻 (21 歳)	殿居村	々	1893.1.8	
智吉	養子 (13 歳)		々	1901.1.10	
*岡村逸作	主 (34 歳)	々	々	1880.12.10	
リウ	妻 (23 歳)	神玉村	々	1889.7.1	
由美	養女 (13 歳)		々	1901.10.15	
榎本一二	妻の弟 (19 歳)		々	1895.5.9	
*竹中三代蔵	主 (31 歳)	々	々	1883.1.13	
イチ	妻 (27 歳)	神玉村	々	1887.5.27	
ユリノ	妻の妹 (18 歳)		々	1896.3.29	
*永島治郎一	主 (27 歳)	山口県豊浦郡	々	1887.4.2	
ツジ	妻 (23 歳)	神玉村	々	1889.7.19	
ムラコ	長女 (3 歳)		々	1911.9.15	
正夫	養子 (15 歳)		々	1900.3.10	
*桂 寛作	主 (36 歳)	々	々	1878.12.20	
イシ	妻 (25 歳)	阿川村	々	1889.1.19	
義唯	養子 (14 歳)		々	1900.5.11	
*佐藤勘七	主 (30 歳)	大津郡	々	1884.11.25	(前述有り)
タケ	妻 (25 歳)	三隅村	々	1889.7.20	
モヨ	養女 (13 歳)		々	1901.9.8	
*宮垣清治郎	主 (28 歳)	大津郡	々	1886.8.2	
ソノ	妻 (24 歳)	三隅郡	々	1890.3.18	
イネ	養女 (14 歳)		々	1900.3.15	
*竹内清右衛門	主 (35 歳)	大津郡	々	1879.7.15	
キヨ	妻 (25 歳)	三隅村	々	1889.12.10	
イト	養女 (13 歳)		々	1901.3.15	
*永尾九十郎	主 (25 歳)	熊毛郡	々	1889.12.11	
マス	妻 (23 歳)	上関村	々	1891.8.17	
ヒチ	養女 (13 歳)		々	1901.10.5	
*秋田武介	主 (26 歳)	熊毛郡	々	1888.12.7	
トミ	妻 (21 歳)	上関村	々	1893.3.16	

喜代松 養子 (13 歳)	々	1901.4.9
加納倉吉 妻の弟 (19 歳)	々	1895.1.16
*重本松次郎 主 (41 歳)	玖珂郡	々 1873.9.25
キヌ 妻 (33 歳)	麻里布村	々 1889.4.9
春子 次女 (12 歳)	々	1902.2.9
前述記載の重本智吉氏は重本家に婿養子入り。		
*花岡三衛 主 (27 歳)	玖珂郡	々 1887.3.5
マサト 妻 (23 歳)	和木村	々 1889.4.12
悟 弟 (18 歳)	々	1896.8.1
*善本元一 主 (23 歳)	玖珂郡	々 1891.11.7
スミ 妻 (24 歳)	藤河村	々 1892.3.9
清 長男 (2 歳)	々	1913.3.15
甫 次男 (1 歳)	々	1914.10.2
寿 三男	々	1916.9.27
一義 弟	々	1898.3.7
*松長太一 主 (24 歳)	山口県玖珂郡	生年月日 1890.2.15
タメ 妻 (20 歳)	北河内村	々 1894.7.6
峯助 養子 (14 歳)	々	1900.8.5
*藤井停治 主 (32 歳)	玖珂郡	々 1882.11.8
イト 妻 (27 歳)	秋中村	々 1887.4.2
吾市 養子 (12 歳)	々	1902.2.20
林 唯祐 甥 (16 歳)	々	1898.12.10
*勝間田九郎 主 (34 歳)	豊浦郡	々 1880.1.3
イソ 妻 (29 歳)	神玉村	々 1885.6.24
一人 長男 (4 歳)	々	1910.2.10
中山ハツ 妻の姪 (15 歳)	々	1900.8.10

*ブラジル山口県人会創立 70 周年記念誌より、またエピソードの中に 1930 年頃にもグアタパラ耕地に知人が配耕されて居りその耕地訪問記事があるので転載。

【野村隆輔のグアタパラ在住知人名】

*市山巖 長崎県佐世保市 渡伯 1913.4.26 生年月日 1912.3.30 (「在長野県人会」132 ページ)
父親たかしと家族移住

*田中佐吉 長野県下水内郡豊田村赤坂渡伯 1930.6.29 生年月日 1907.3.18
妻 みつ 生年月日 1911.4.15 最初の配耕先グアタパラ (「在長野県人会」134 ページ)

【モジアナ線グワタパラ耕地を訪ねた時の事 野村隆輔 記】

レジストロ植民地では、日本人が土着人を使って断然優位の立場にあったが、ここ（グアタパラ耕地）の外人共は「オージャポン」と呼んでいたのには少なからず驚き、何だかプライドを傷つけられたようで憤慨せざるをえなかった。

1928年の大霜には、あの広大な大耕地が枯野原に化した寒さであった。

寒さに震えながら懐手している所に、「オージャポンおはよう」と云ったので思わずカンシャク玉が破裂して、「この野郎」といきなり突き飛ばしたのが運悪く、牛糞にすべってスッテンコロリと転倒し、その上すぐそばにいた牛に蹴飛ばされてしまった。

それを見た牧夫連が大歓声をあげてので、監督が急いで飛んできたが、余りの早技だったので誰も事情を知らず、仲間の一人が「サンチンが転んで牛に蹴られた」と説明したので又々大爆笑となった。（1930年頃）

*生原モアーシル（重吉長男）1933年4月15日グアタパラに生れる、後年アンドラジーナ在住。
（「ブラジル日系紳士録」515ページ）

*佐々木辨五郎・妻まさ岩手県川井村出身 1933年4月26日渡伯。構成家族に弟康雄・妻てるこ、とみよ、きみこ、忠治、ともこ、ちよみ、次郎、広治。一家はグアタパラ耕地で2年就労後、セルトンジニーニョ、プルデンテなど6回移転。（在伯岩手県人会資料）

*阿部正弘、山形県酒田市渡伯 1933.8.26 アラビア丸、配耕先のグアタパラに入植、耕主の愛馬2頭共骨軟症に罹り困って居た時、氏の持ち前の気性と特技を発揮して此の2頭を完全に治療してやった為、移民者は無論耕主も驚き且つ感謝して其の結果として殆んど百姓をする必要が無かったと云う。
（「在伯山形県人移住62年」88ページ）

“注記” この阿部正弘が日本移民コロノとしてグアタパラ耕地での就労が最後と思われる。



グアタパラ耕地製糖工場全景

1933年～1934年1月1日の調査時のグアタパラ耕地配耕者

北海道3戸 新潟2戸 静岡1戸 富山1戸 三重1戸 兵庫1戸 広島3戸 愛媛1戸 熊本24戸
福島1戸 神奈川1戸 長野1戸 岐阜1戸 和歌山1戸 岡山5戸 山口2戸 高知3戸 合計62家族
通訳 弘田千代太氏（「在伯日本移植民25周年記念鑑」より抜粋）

*奥田勇夫、岐阜県不破郡赤坂町出身 サン・ジョアキン配耕後グアタパラ耕地で米作をなす
1939年サント・アマール郊外移転バタタ栽培等（「ブラジル日系紳士録」313ページ）



モジアナ線グアタパラ駅（1910年開通）1995年撮影

【思いがけない出会いとなったグアタパラ移住地出身の斉藤長一家】

斉藤長一氏夫人君江さんの先祖ルーツを遡ると、父方の祖父母 服部助丸（1893.1.20 生）、チヨノ（1894.9.30 生）夫妻の渡伯は1913年11月の若狭丸（第8回移民）で、福島県安達郡木幡村出身者である。この夫妻の子は、長男パウロ、次男ジョン、三男ジュリオ、四男パチスタ、長女ルイザ、五男アウグストの六名。アララクワラ線サント・エスチーナ駅ココイ耕地で義務農年終了後、カンブイ耕地、サント・エリザ耕地を経てリオ・プレート駅付近でコーヒー請負栽培6ヶ年後、半独立農になった。

君江さんの母方については、祖父 渡辺静夫（1900.4.15 生）がその実兄渡辺久（1888.12.23 生）、カウ（1893.9.8 生）夫妻の構成家族員として1914年4月の若狭丸（第9回移民）で渡伯、福島県安達郡白岩村出身者である。

チビリサ駅クラビーニョス耕地に就労後、カタンツバ駅付近で1年、さらにリオ・プレート駅の福島植民地に農地を求めて入植する。この第9回移民はグアタパラ耕地へも103家族配耕され、その中には多くの福

島県出身者が含まれていた。

渡辺静夫はフジ（1900.5.31 生）と婚姻、この夫妻には次の子が出生している。

長男勉（1920.4.21 生）、次男武（1921.11.3 生）、三男操（1925.2.27）、三女艶子（1926.3.17）、五男剛（1928.10.15）、六男修（1930.8.10）、四女正子（1936.2.20）、五女花子（1939.3.8）、六女綾子（1942.12.14）。1940年、服部、渡辺両家は共に、パラナ州アサイ郡トレス・バラス移住地カビウーナ区に入植し、服部助丸氏次男ジョン氏と渡辺静夫氏三女艶子さんが同区で婚姻。この夫妻次女の君江さん（1952.11.1 生）がグアタパラ移住地在住の齊藤長一氏と結婚したのである。長一氏の母堂甲子（かねこ）さんは福島県西白河郡生まれです。当初モジアナ沿線に配耕された福島県出身祖父母の孫である君江さんが日本移民ゆかりの地に戻ってきたことになり、そして福島県人の血を継ぐ者が偶然に出会うことになったのはグアタパラ移住地随一のことである。

また、トレス・バラス移住地パルミッタール区入植の小山良男氏は、1933年1月のあふりか丸渡伯の奈良県宇智郡大河田村出身者で、その妻ルイザ（1924. 8.22 生）さんは、服部助丸氏の長女である。小山良男（両親 父良三、母八重野）、ルイザ夫妻の長男ジュリヨ晃（1950. 7.14 生）氏は、パラナ州日系最大のインテグラダ農協の役員で、農拓協に属していることからグアタパラ農協とも大変縁が深い人である。

このトレス・バラス移住地は前述してあるが、笠戸丸移民でグアタパラ耕地に7ヶ年長期就労した菅原定三郎氏（新潟県出身）の入植地でもあり、同じく笠戸丸移民でソブラードに配耕された池田栄太郎氏（愛媛県伊予郡上灘村出身）も入植されている。



トレス・バラス移住地の住宅はなぜか高床式が多い 小岸右門七氏（三重県出身）の住宅
服部助丸氏も略同じ作りの住宅に住む 1948年頃
パルミッタール区入植70周年記念誌より転載